



桐

K

I

R

I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 安達 富夫

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>



平成21年度会務報告



同窓会会長

安達 富夫

(昭和43年 3月卒)

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃から同窓会に対して様々なご支援、ご鞭撻をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、この原稿を執筆しているここ数日はというと、開幕して間もない上海万博の賑わいと、昨年、政権交代した現内閣の最大の難局である沖縄の普天間基地移転問題が、連日のように新聞、テレビ等で報道されております。日本経済も長引く不況からなかなか脱しきれず、ここ昨今、明るい話題があまり無い毎日の中、本会会員諸兄におかれましては、必死の思いでご健闘されているのではないかと拝察いたします。

ところで、本誌は今号で通算して第40号となりました。

1年に1回の刊行ですが、ようやく本誌『桐』も40歳になりました。これまで、本誌刊行のために多くの方々からご協力、ご支援いただきましたこと、あらためて誌上を借りて御礼申し上げます。

そこで、第40号を記念して今号から、一部カラー印刷を取り入れることとしました。本会の財政状況からでは、8頁すべてのフルカラーはなかなか困難ですが、これによって、これまで以上に会員諸兄の皆様方が本誌をご高覧いただければ、編集発行人としては、望外の喜びでございます。

記念すべき第40号の1面は、本会役員木村義男氏（会計担当）が本年4月に撮影した、母校近辺の目黒川に掛かる満開の桜並木の写真です。

それでは、本誌を通してこの1年間の本会の経過報告等をさせていただきます。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する祝意と激励を行ってまいりました。

次に、本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の第62回卒業証書授与式を以て、新たに196名の新会員を迎え、会員総数では29,896名を数えるにいたりしました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、5組10名でありました。（7頁記載）

また、同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成21年度は6頁にご芳名記載の



とおり184名の方々から納入をいただきました。このうち、新規に納入をいただいた方々は46名でした。

ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてたびたびご案内させていただいておりますが、一口1,000円で全会員を対象にご協力をお願いしております。

ところで、この賛助会費は、同窓会の危機的な財政状況を打開するため、平成元年から納入をお願いいたし、ご協力をいただいてまいりまして、これまで本会の財政再建に大きく寄与してくれております。大変に有り難うございます。

しかしながら、昨年は経済不況が影響してか、前年に比較すると納入者は減少となり、近年でも会員数が年々増加するにもかかわらず、納入者は頭打ちとなっております。

本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費（同窓生年会費）の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

次に、諸先輩方をはじめとする私達同窓生には、大変残念ながら報告であります。一期生の結城重一様（昭和20年卒）が昨年12月にご逝去されました。享年82歳でした。結城様は、長年

にわたって本誌に油研工業株式会社の広告を毎年掲載いただくとともに、同窓会総会・懇親会にも必ずご出席くださり、本会発展のために大変ご尽力されました。

また、本年3月末には本会役員の藤田貞男様（昭和28年卒）がご逝去されました。享年77歳でした。藤田様は、長年にわたって本会役員の会計監査をお務めいただき、本会活動に大変貢献なされました。本会としては、かけがえのない人材を失い大変、残念でなりません。

故人の生前のご活躍に敬意を表するとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

また、本会では発足後65年を経た近年、毎年多数の会員のご逝去の報が、事務局に寄せられるようになってまいりました。ここにこの1年間にご逝去された会員諸兄のご冥福も、謹んでお祈りいたします。

おわりに、平成22年度の本会の活動は、明年、3年ぶりの総会・懇親会を開催するに当たり、その準備を行う年となります。今後もお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄、母校在校生並びに教職員の皆様方の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

平成21年度もおかげさまで関係者の皆様のご支援・ご協力を賜り、職務を遂行することができました。中高一貫コースと高入生コースの生徒・教職員の交流も徐々にではありますが成果をあげ始めております。様々な学校行事も軌道に乗り、今後も生徒の個性を良い方向に導くための教育内容の充実に邁進する所存です。

さて、そのような教育内容を今後さらに充実させる端緒として、来年度から中高一貫コースと、高入生のうち特進コースに、女子を受け入れることになりました。本校の70年に及ぶ歴史と伝統を最も引き継いでいると思われる、高入生の総合コースと体育コースの募集は、当面は男子校のままで継続して行いたいと考えております。いわゆる「男女共学化」ではなく、一部のコースにおける「女子生徒受け入れ」として行うことで、同窓会の皆様の様々な思いをも勘案した上での決断でございます。何卒、卒業生の皆様におかれましては、今後も本校へのご支援とご協力を賜りたいと願っておりますことを、重ねて申し添えて冒頭のご挨拶とさせていただきます。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

平成21年度の目黒学院では、残念ながら新型インフルエンザの流行にともない、いくつかの行事を中止せざるを得ませんでした。特進コース2年生のオーストラリア語学研修旅行を始め、芸術鑑賞や学年会礼を中止いたしました。また、一貫コースで

はスキー教室を中止いたしました。高入生ではいくつかのクラスが、また一貫生では全学年が一時閉鎖を余儀なくされ、全校生徒の3人に1人がインフルエンザに罹患いたしました。今後も引き続き生徒に注意を促すとともに、校内の美化・身なりの清潔を保つことの重要性の周知徹底に努めて参りたいと考えます。

2. 教職員の異動

小川満康先生（国語）、久保敏紹先生（理科）、野村君子先生（事務）が定年退職されました。小川先生は引き続き専任講師として高入生の授業をご担当されております。また、野村先生も引き続き事務室での業務をご担当いただいております。一方、城所功二先生（英語）を常勤講師としてお迎えしました。

現在の専任教員数は67名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は7名となっております。

3. 部活動の状況

高等学校では関東大会以上に出場したのは、空手道部でした。空手道部は全国空手道選手権大会にも出場しております。また、本校の部活動ではありませんが、フィギュアスケートでは全国大会に出場、ヨットのセーリング競技では国体に出場いたしました。

中学校ではバスケットボール部が都大会に出場しております。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。生徒の大半が大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉強であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を育成したいと考えております。

5. その他

平成21年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、6名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

平成21年度決算報告書

平成21年4月 1日から
平成22年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	決算額	摘 要
同 窓 会 費	2,216,700	2,216,700	613名分
入 会 金	466,000	466,000	233名分
賛 助 会 費	580,000	539,120	184名分
雑 収 入	80,000	102,522	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	3,342,700	3,324,342	
前年度繰越金	1,725,022	1,725,022	
収入合計	5,067,722	5,049,364	

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	決算額	摘 要
総 会 費	1,311,500	1,176,335	
通 信 費	1,150,000	1,028,880	会報発送郵便料
印 刷 費	160,000	146,615	賛助会費振込用紙
雑 費	1,500	840	
会 議 費	96,000	52,887	
役 員 会 費	90,000	49,087	出席者食事代
通 信 費	5,000	3,800	開催通知郵便料
雑 費	1,000	0	
補 助 費	380,000	300,000	
部・同好会補助	350,000	270,000	在校生部活動補助
文化祭補助	30,000	30,000	植林祭の祝金
事 務 費	644,000	642,887	
人 件 費	330,000	314,361	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	250,000	275,631	会報発運用封筒代
交 際 費	60,000	50,465	慶弔費
交 通 費	2,000	0	
雑 費	2,000	2,430	
名 簿 費	410,000	392,400	
機 関 紙	210,000	195,000	15,000部作成
卒業生名簿	200,000	197,400	平成22年3月卒業生分400部
奨 学 金	400,000	400,000	在校生奨学金6名分
予 備 費	500,000	500,000	母校環境充実寄付金
当期支出合計	3,741,500	3,464,509	
次年度繰越金	1,326,222	1,584,855	
支出合計	5,067,722	5,049,364	

〔特別積立金〕		(単位：円)	
保 管 種 別	本年度末	前年度末	
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000	

平成22年度予算書

平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
同 窓 会 費	2,208,000	2,216,700	△ 8,700
入 会 金	414,000	466,000	△ 52,000
賛 助 会 費	550,000	580,000	△ 30,000
雑 収 入	68,000	80,000	△ 12,000
当期収入合計	3,240,000	3,342,700	△ 102,700
前年度繰越金	1,584,855	1,725,022	△ 140,167
収入合計	4,824,855	5,067,722	△ 242,867

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
総 会 費	1,311,500	1,311,500	0
通 信 費	1,150,000	1,150,000	0
印 刷 費	160,000	160,000	0
雑 費	1,500	1,500	0
会 議 費	91,000	96,000	△ 5,000
役 員 会 費	85,000	90,000	△ 5,000
通 信 費	5,000	5,000	0
雑 費	1,000	1,000	0
補 助 費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文化祭補助	30,000	30,000	0
事 務 費	584,000	644,000	△ 60,000
人 件 費	320,000	330,000	△ 10,000
事務消耗品費	170,000	250,000	△ 80,000
交 際 費	90,000	60,000	30,000
交 通 費	1,000	2,000	△ 1,000
雑 費	3,000	2,000	1,000
名 簿 費	450,000	410,000	40,000
機 関 紙	250,000	210,000	40,000
卒業生名簿	200,000	200,000	0
奨 学 金	400,000	400,000	0
予 備 費	100,000	500,000	△ 400,000
当期支出合計	3,316,500	3,741,500	△ 425,000
次年度繰越金	1,508,355	1,326,222	182,133
支出合計	4,824,855	5,067,722	△ 242,867

平成21年度の決算報告ならびに平成22年度の予算を掲載いたします。

平成21年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で40万円の支出超過を予定して開始されましたが、収入は若干減少のほぼ当初予算どおり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して28万円の減少となりました。

この結果、単年度収支で14万円の支出超過に止まり、次年度への繰越金は158万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおり収受し、賛助会費は予算比で若干減少しましたが、雑収入が若干増加したため、収入合計では、予算に対して約2万円の減少となりました。

2. 支出の部

総会費をはじめとしたすべての経常支出科目において節減努力した結果、予算対比で28万円の減少となりました。

なお、在校生に対する奨学金支出は、本年度6名分を執行しました。

〔会計監査報告〕

私は、平成21年4月1日から平成22年3月31日までの平成21年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成22年4月20日 会計監査 石渡博己

平成22年度予算について

平成22年度収支予算は、平成22年度の事業計画と平成21年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は613名、入会金は207名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は過去実績を勘案して延べ550口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、定期総会・懇親会が開催されないことに伴い、総会会費及び寄附金収入については、予算未計上となりました。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成23年3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

これ以外の経常的運営費については、明年の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成しました。

この結果、次年度への繰越金は150万円を予定し、単年度収支では7万円の支出超過予算となりました。

非破壊検査 鉄骨検査 鉄筋探査 構造物診断調査

株式会社 ディーアイジェクト

- ・東京都検査機関登録会社
- ・CIW-B種認定検査事業者

専務取締役 土井義夫 (昭和55年卒)

本社/神奈川県川崎市川崎区旭町2-18-6

TEL 044-200-7286 FAX 044-246-5080

(名古屋 栃木 中国 韓国 バンコク インドネシア)

会員紹介

生涯七十万時間の使い道



ヒジ カタ クニ タカ
土 方 國 任
(昭和31年3月卒)

シーズン中の夜間のカーラジオはどこを押しても野球中継でふさがっています。野球は嫌いではありませんが、そんなに熱狂的なファンでもないので、そんな時はNHKの第二放送のボタンを押します。外国語の語学教室は別として、中には高校講座「現代文」「源氏物語」あるいは「万葉集鑑賞」等々、講師の先生方の巧みな話術と、朗読者の心の奥深くに染み入るような音声で読まれるひと節ひと節の名文に、昔愛読した、漱石や鴎外や志賀直哉など文豪たちの文庫本の表紙なんか脳裏に浮かんだりして、実に心地良いひと時を過ごすことが出来ます。

又、学校での歴史ではおよそ近現代史に到達することなく世界史も日本史も中途半端な所で終わってしまいましたが、ラジオ講座では全体像を縦横に飛翔して、どんな理由でフランス革命やロシア革命が起こったのか、そして、なぜ悲惨な世界大戦に二度も突入していったのか等を立体的に解説してくれます。

日本史では長い鎖国政策の後に近代の夜明けを迎え、明治維新を経て、西欧列強に並ぶようになったいきさつを、時には司馬遼太郎の「坂の上の雲」を引用したりして解説してくれます。

私にはことさら「勉強」という意識は毛頭ありません。しいて言うなら、一つの趣味感覚で聴くので、勿論テキストなどは買ったことはありません。それでも好きな作家の「文化講演会」の放送に出会ったりしてたっぷり一時間大いに満足することがあります。

先だっては珍しく、保健体育の講義を聴くことが出来ました。講師は鳥居吉二先生で（私はこの先生がどういふ方か全く存じ上げておりませんが）テーマは「ライフステージとスポーツ」というものです。ライフステージとは「人間には幼年期、児童期、青年期、壮年期、老年期など、生涯を共通した特徴により区分した段階をいい、各ステージで、スポーツとさまざまなかわり」を持ちつつあり、従来は、スポーツは「主に青少年までのものとみなされていましたが、近年の特徴として、固定的な捉え方が見直され、すべてのステージにわたりスポーツが推奨されており・・・」と続きます。

そして話は意外な方向に展開します。

「生涯学習社会」に生きる私たちは（1）日常的な生活の中で、さまざまな文化に触れ、（2）自分なりにそれを受け入れ、（3）豊かなライフスタイルを作り上げる。

人生八十年の時代と言われるようになりましたが、時間に換算すると約七十万時間で、この内約三十五万時間は睡眠、食事、排泄など生きものとして必要な時間です。残りの三十五万時間から労働（就学）時間をのぞいた約二十万時間が自由時間で増大傾向にあります。その結果、①「生涯学習」や

②「生活の質」の追求に向け、スポーツは重要な活動の一つです。

私はこの件（くだり）に至ってある種のショックを受けました。この仮定の七十万時間を目標にすると、私の残り時間は五万五千時間余りとなります。さあうかうかしてはいられません。さすがに保健体育の先生だけあって、睡眠、食事、排泄の生きものとしての三大要素を大前提として、人間の一生である「人生」に於ける「生涯学習」、「生活の質の追求」、「文化としてのスポーツ」のとらえ方と、人間をマクロにとらえていることに改めて感じ入りました。そして残り五万五千時間だあ！と私が周章狼狽するのはとんだ御門違いというもので、この講義は高校講座なのです。十五歳から二十幾歳を対象にしているのです。この年代の若者たちが、人生を時間で輪切りにして捉え、睡眠や食事や排泄のほかに、追求しなければならない多くの大事な事柄が数多（あまた）あるのだということを、この講義を聴いたことによって感じ取ることが出来たら、彼等の人生はより実り多いものとなるでしょう。

ここにこの講座の「保健体育」という枠を超越した秀れた意義が内包されていると思います。そして我々壮年期、老年期（年長期—引用者）の者も、残り時間が何万時間であれ、何十万時間であれ、そんなことは関係なく、生涯学習や生活の質、そして文化としてのスポーツ（と言ってもせいぜいゴルフ位ですが・・・）を楽しみ、大いに人生を謳歌していきたいと思います。



東邦工業株式会社

Toho Industries Co., Ltd








● 業務内容

熱硬化性プラスチック用インサートナット
熱可塑性プラスチック用インサートナット
携帯電話対応インサートナット

● ISO 9001.14001 認証取得

● 本社・工場
東京都目黒区下目黒2丁目12番3号
TEL : 03-3490-1311(代) FAX : 03-3490-3848

● 大岡山工場
東京都目黒区大岡山1丁目6番10号
TEL : 03-3717-3153 FAX : 03-3717-6790

● 品川工場
東京都品川区南大井1丁目20番7号
TEL : 03-5764-3611 FAX : 03-5764-6760
E-mail : info@toho-indust.co.jp
URL : http://www.toho-indust.co.jp

代表取締役 **土 方 國 任** (31年3月卒)
Hijikata Kunitaka

生涯現役の気概を抱きつつ



ミ タ タケシ
三 田 武
(昭和33年3月卒)

本会副会長の市川康憲さんが、取材、インタビューをしてくださいました。

昭和33年、普通科を卒業された三田武さん（71歳）は、世田谷区等々力7丁目に在住。現在、深峯園緑化（しんぼうえんりよくか）株式会社の代表として、生涯現役の気概で息子さんを始め従業員の皆さんの先頭に立って活躍されています。

高校時代は、バス交通が整備されていなかったため、生家の深沢から東横線都立大学駅まで25分くらい歩いて通学していたとそうです。高校生活は、1クラスで生徒数は60人、担任は2代目理事長の関口敏郎先生、前校長を務められた須藤亘啓先生は、当時若き教員として活躍されていました。中でも、関口先生がヨーロッパ各国を訪問した際は興味深く聞かせていただき、今でも鮮明に覚えているそうです。当時、クラブ活動はあまり活発ではなく、同好会が中心で写真同好会に所属、印画紙への焼き付けまで手掛けていたそうで、この高校時代に興味を抱いた写真は、現在も続いています。時間を見つけてはカメラを担いで撮影に出かけられ、最近も、

桜を撮影するため妙義山まで足を運び、山や緑を背景に桜の撮影をされています。

高校卒業後は、家庭の事情で江戸時代から続く家業の造園業を引き継ぐ事になり、現在にいたっているとの事。何人かの同級生が近くにもいたそうですが、今では全く顔を見ることがなくなったとのこと話し。今後も健康にご留意いただき、生涯現役でご活躍されますことを願いつつお宅を後にしました。（市）



我が恩師と共に

イ グチ ケン ジ
井 口 見 司

(昭和53年3月卒)

我が母校目黒高校（旧校名）を卒業して、気が付くと早30年以上が経っていました。ふと旧友のことを思い出し皆元気であるか、何をしているのか消息はどうなっているかと考えているうちに、担任だった工藤先生に相談にのってもらった所、クラス会でもやらないかとアドバイスを受け、早速準備に掛かりました。何せ30年以上前のことで住所も分からなく困り果てていた所、同窓会の安達会長に相談にのって頂き、また快く対応して頂きまして誠にありがとうございました。お礼申し上げます。

さて、平成20年11月8日、9日と1泊2日で学校の校外施設「富桐閣」（甲府市）をお借りして開催することになりました。そして、早速、旧友一人一人にハガキを出して連絡を待つことになりました。数日が過ぎ仕事が終了後、自宅郵便ポストを見るとハガキが一枚入っていました。見てみると欠席でした。

しばらくして郵便ポストを見ると、またまた欠席でした。やはり30年以上経つと、それぞれ家族や仕事があり忙しいのが分かった次第です。それでも、落胆していると初めての出席ハガキが来て、それはもう飛び跳ねる様な喜びでした。そうこうしているうち、家庭、仕事の都合をつけてくれた7名の出席が決まりました。

当日は、恩師の工藤先



(筆者は右端)



優しさと和をもち
大切な建物を守る

優和デザイン

北村 徳章 （平成2年卒）

∞∞ 目黒学院卒業生の皆様 ∞∞

建物の改修工事など

お気軽にご相談下さい。

〒115-0045

東京都北区赤羽1-66-10 シティ赤羽602

TEL 03-6802-6536

e-mail : yw-design@ksh.biglobe.ne.jp

体も温まったところで「富桐閣」へ戻り、二次会の始まり。一泊で開催している為時間を気にせず、宴も深夜まで続き時

最後に、関口校長先生を始め、諸先生方、事務の方々、「富桐閣」の管理人の方、皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

◆ 母 校 O B 教 員 紹 介 ◆

今回は母校を卒業し、現在、教諭として目黒学院高校に勤務する4名の方をご紹介します。

それぞれの方から、趣味・特技と母校で学んだ3年間の振り返っていただき、目黒での思い出を以下にお寄せいただきました。



ナイ トウ カズ ヒロ
内 藤 一 広 先生

(地歴公民科教諭・生活指導部主任・硬式野球部顧問)

1983年本校普通科を卒業後、駒澤大学経済学部を卒業し、1993年より本校地歴公民科教諭として勤務。

趣味・特技：「野球一筋、狙いはもちろん甲子園！」

目黒の思い出：「都立高校に合格！しかし野球部が軟式」これが、目黒高校（旧名）に入学するきっかけで、最初の出会でした。当時「目黒」と言えば硬派の不良高校で、先生方もヤクザ風の先生が多かったと思います。入学式翌日に野球部の上級生が「入部したい者はいるか～」と教室に来たので即入部しましたが、やたら人数が多く、1年生が廊下に整列した時に5列だったのに驚きました。学校に通うというより、「野球部に通う」という状態でありました。幸運にも早くから試合に使って頂きましたが、入部当初は1年生はテーピング禁止だったので、手のマメが5枚剥け、箸を握れなくなった思い出が懐かしいです。

1年の秋から中軸の4番を任されましたが、下級生で試合に出ていたのは常時2名だったので、上級生のプレッシャーも現在の肥やしになっております。50名入部した同級生も3年時には14名に減っていましたが、今でも繋がりのある良き仲間と出会えました。

卒業後、大学時代に野球部のコーチ、大学卒業後に監督、そして教諭就任と4つの接点を持っていますが、自分の人生の中に目黒は大きく存在し、色々な経験を積ませて頂きました。教諭に就任した時のお祝いの会で、佐藤元副校長先生から「これで野球部は30年間は安泰」と言われましたが、その言葉に比べられるよう、必死であります。この誇りある母校のより一層の発展に今後も微力ながら努力して行きたいと思っております。



タケ ウチ ケイ スケ
竹 内 圭 介 先生

(情報科教諭・ラグビー部顧問)

1995年本校機械科を卒業後、東洋大学経済学部、仏教大学応用社会学部を卒業し、2005年より本校情報科教諭として勤務。

趣味・特技：「Blood sports、スノーボード、ルパン三世、映画鑑賞」

目黒の思い出：私は神奈川県にある中高一貫の私立中学に通っていました。中学入学当初は、高校は付属の高校に通学するつもり（附属高校への進学は当たり前だったので、考えたこともありませんが…）でしたが、父親の影響で小学生から始めたラグビーを『極めたい』と考えるようになりました。そこで目黒高校の門をくぐることを決意しました。

目黒高校は、私が入学する前年に全国大会ベスト8という成績もあり、1年生部員が100名弱も集まりました。想像以上に厳しい練習と上下関係があり、辞めていく1年生が多い中、単純に『負けたくない』という気持ちで練習と試合に取り組みました。その結果、1年生から試合に使っていただきました。また3年次には主将を務めさせてもらいました。

この目黒ラグビーで学んだことは、社会に出てからも大いに役立つことになりました。まずは厳しい練習に耐えた忍耐力が身に付き、目標に向かう努力、全力を尽くすことを学び、挨拶・敬語を覚え、そして何より、3年間共に戦い続けた仲間達が出来たことです。

今、母校に戻り、ラグビー部を指導させてもらえ、その指導の中で、当時の仲間達から多くを助けて貰っています。こんな仲間達ができた目黒に感謝するとともに、在校生にも、生涯の仲間を作る3年間にして貰いたいと、一OBとして心より願っています。

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

井 口 見 司 (父)	昭和53年3月卒
慎 司 (子息)	平成22年3月卒
奥 住 安 弘 (父)	昭和50年3月卒
直 也 (子息)	平成22年3月卒
藤 兼 英 夫 (父)	昭和35年3月卒
孝 佑 (子息)	平成22年3月卒

山 本 哲 也 (父)	昭和54年3月卒
逸 平 (子息)	平成22年3月卒
吉 田 正 樹 (父)	昭和44年3月卒
圭 吾 (子息)	平成22年3月卒



スギ サカ ユキ オ
杉 坂 幸 雄 先生
(保健体育科教諭・サッカー一部顧問)

1970年本校機械科を卒業後、法政大学経営学部、国士舘大学体育学部を卒業し、1977年より本校保健体育科教諭として勤務。

趣味・特技：「球が好き、ラグビーもサッカーも！」

目黒の思い出：一番の思い出は、第49回全国高等学校ラグビーフットボール大会の初優勝です。「三度目の正直」という言葉がありますが、それが文字通りに実現するとは誰も思っていませんでした。全国大会、初出場で準優勝、翌年2度目の出場では、大型チームで大会前から優勝候補にのぼっていたにもかかわらず、再び準優勝。私達が3年生になり、新チームは前年と違い、身長・体重も一回り小さなチームで、監督自身この年の目標は、3年連続全国大会出場のようなのでした。そのチームが3度目の決勝で、とうとう優勝しました。

当時のことを思い出しますと、決勝戦までの一試合一試合が鮮明に頭に浮かんできます。初戦の大阪・報徳学園に14-3と苦戦しながらも勝ち、二回戦、名古屋・星稜高校に23-3と圧勝。三回戦・四回戦は福岡工高、天理高校を完封し、尻上がりに力強さを増していきました。プレースキックと、ペナルティーキックに多少の不安を残して決勝に臨みました。相手は九州遠征の練習試合で、大敗した長崎・諫早農高。諫早農高は、長崎国体の優勝チームでもありました。しかし、私達はフォワード線で五分と五分の勝負に持ち込むことが出来れば、勝機ありと考えていました。そのフォワード線に優位に立ち、大苦戦したものの20-16で勝利しました。勝因は一戦ごとに力を発揮したフォワードとバックスの、バランスの良さだったと自負しています。一人ひとりの体は小さくとも、チームとしてまとめることが大切なのです。



ハタ カマ タカ ヒコ
幡 鎌 孝 彦 先生
(保健体育科主任教諭・ラグビー部顧問)

1970年本校普通科を卒業後、法政大学文学部、国士舘大学体育学部を卒業し、1978年より本校保健体育科教諭として勤務。

趣味・特技：「哲学好きが高じて、息子の名は貫人」

目黒の思い出：私が入学した頃の目黒は、硬派のイメージの強い学校であった。ちょうど制服が指定されて間もない頃でもあり、風紀週間は制服、制帽、指定の靴などのチェックが正門で行われていた。当時は風紀担当の先生よりも、3年生の風紀委員のほうが恐かった記憶がある。

梧林祭に関してはうろ覚えであるが、強烈に覚えていることが二、三ある。当時の梧林祭は、今より派手で元気いっぱいだった。前夜祭と称して、生徒も先生も学校に泊まり込んで準備をした。これがめちゃくちゃ楽しいものだった。時には、他校生による「梧林祭つぶし」の情報が流れて、生活指導部の先生とラグビー部員の2名一組で警備をした。今では信じられないようなことが現実にはありました。梧林祭では木工部員の制作した、タンスやサイドボードの販売が好評で、開始早々あっという間に売約済みになっていた。また、校庭では自動車部の生徒が作った車が、悠々と走っていたの思い出す。体育祭では、何とんでも「騎馬戦」と「棒倒し」である。終了の笛が鳴ると、あっちこちで大乱闘が起こっていた。先生方は止めに入るのに大わらわであった。生徒にとっては、年に一度の元気の発散場所であった。

最後の思い出は、渋谷公会堂で行われた卒業式である。式終了後、目黒の校章の付いた制帽が無数、高々と空に舞っている光景が、今も臉に残っている。

◆急募！ 同窓会活動に
ご協力いただける人材◆

対 象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。

連絡先 安達 富夫 TEL 090-4063-6580

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおま
ちしています。

〔要領〕 開催の模様（開催日時、場所、参加者数等）を、
 字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の
 氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記
 にお送りください。

〔宛先〕 〒153-8631 目黒区中目黒1-1-50
目黒学院高等学校同窓会事務局 まで

49		第94回大会 1970 昭和45年	
		優勝候補補頭の秋田工が初戦で敗れる波乱の幕開け。優勝したのは、初出場以来2年連続準優勝の目黒。目黒は攻守にわたりチーム一丸となり、準決勝までの4試合で79得点、6失点と危なげない試合運びだった。決勝の読早農戦は、互いにオープン攻撃に徹し、見ごたえのある試合となったが、個々の当たり、試合運びで勝る目黒に受け切った。	
▶花園ラグビー場 ▶出場32校 ▶1970年1月1日～9日		優勝候補補頭の秋田工が初戦で敗れる波乱の幕開け。優勝したのは、初出場以来2年連続準優勝の目黒。目黒は攻守にわたりチーム一丸となり、準決勝までの4試合で79得点、6失点と危なげない試合運びだった。決勝の読早農戦は、互いにオープン攻撃に徹し、見ごたえのある試合となったが、個々の当たり、試合運びで勝る目黒に受け切った。	
👑 決勝 花園ラグビー場 1970年1月9日 📺宮崎放送 目黒 (東京) 読早農 (長崎)		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
20 10-3 10-13 16		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準々決勝では食い下がる磯原を振り切った慶應と、伝統校らしい戦い振りを見せた。また初戦で忠実なタックルで古豪・秋田工を破った山口県の健闘が光った。	
佐田 山田 正林 山田 小嶋 黒川 杉田 山田 山田 山田 大		他には、花園戦で残り10分で11点差を逆転した天理、初戦で浪商に逆転勝ちすると、準	